

「論文作成」のための特別講座 練習問題 1 2

自分の経験や、身近な人たちのようすから学んだことをもとに、「働くことの大切さ」という題で、あなたの考えを600字以内で書きなさい。

「論文作成」のための特別講座 練習問題 1 2 解説

典型的な「作文型小論文」の「未来型」である。

「題意」は、

- ① 自分の経験を取り上げる場合は、自分の「失敗」経験から、克服すべき「課題」を具体的にあげることが設問は求めている。
- ② 身近な人たちの様子を取り上げる場合は、その人達の職業に関しての社会的な意味や、困難さ、やり甲斐など、プラス面であらえた目標として書くことが出来るか、また、そのような職業に就くために、自分は何をするべきなのかを具体的に説明することが求められている。
- ③ 自分の「高校生活 3 年間」→「高校卒業後の将来」を描くこと。
の 3 点である(未来への希望を書くこと)。

必要な、論文内容は、次のような項目である。展開順は、違っていてもよいが、筋道が通っている必要がある(必ず、段落分けすること)。

第 1 段 「働くこと」について、自分の知っていることの説明。

(=「働く意味」について、できるだけ具体的に説明する)

第 2 段 「将来の希望」を働くことと関連付ける

(=「働くこと」と自分の将来の可能性の関係を説明する)

第 3 段 「将来の希望」を実現するために必要な学力や技術(題意への回答)

(=「課題」)… 実現したいことに必要な求められている資格や、資格を取るために必要な学習方法・期間など、自分が取り組まなければならないこと。… ここを最も多く書く必要がある。

第 1 段では、自分があこがれる職域の偉人や先輩、あるいは代表選手などをあわせて紹介してもよいだろう。

なお、「過去・現在の自分」には、「将来の希望」を考えるようになったきっかけ(動機)や、過去のいきさつなどを書く。この設問は、「変えることのできない過去」をふりかえること(説明)を求めている。そこで、自分が中学校時代までに取り組んできたことなど、具体的に自分を説明する文を書くのが素直である。その場合は、中学校時代の体験を書く場合は自分の得意なことを書くことが多い。ただし、失敗談(あるいは不十分な部分)を書くこと(ここで書く「体験」は、「目標」と関連した内容に限る)。

たとえば、「中学生の試合の時に〇〇のような失敗をした。高校では、このような失敗をしないための練習に取り組みたい …」などのように。

第 2 段の「将来の希望」の部分には、将来に希望する「職業」や「資格」を書くことが中心的な内容になる。しかし、「職業」や「資格」だけを書かないこと。たとえば、「〇〇になって(の資格を取って)、◎◎をすることで社会に貢献したいのが将来の希望である」などのように、自分の将来に対しての具体的な、「夢(◎◎の部分)」と「目標(〇〇の部分)=課題」の両方を書くべきである。最低限、どちらか一方は必ず書かなければならない。これがなければ、頑張りようがないからである(少なくとも、次の第 3 段が書けない)。

いずれにせよ、今知っている「働く」ということと、高校卒業後に目指す「職業」や「進

路」の2つを具体的に書くことが、このタイプの「小論文」の重要ポイントである。

第3段の「課題」には、将来、手に入れた「職業」や「資格」に就くために求められる知識内容や技術内容を説明すること。たとえば、「将来は、〇〇で、活躍をしたい。その資格を手に入れるには、△△の学力(技術)が求められる。だから、高校3年間では、その△△の学力(技術)を身につけるために、自分は学業(あるいは、学業と部活)に取り組みたい」と書く方法がある。その場合、「△△」の部分を書き具体的に書くことが重要である。現在の自分の学力(能力)と目指す目標(能力)までの「距離」をうめるために、「高校3年間」で一生懸命に取り組む覚悟を書いて「熱意」を示すこと。第2段に書いた『不十分な部分』を克服することが課題」などのようにするとよい。(「結論」部分)

なお、第1段から第3段までの内容が密接につながっている必要があることを忘れてはならない。特に、第2段と第3段が矛盾することは致命的で、「0点」の評価となるであろう。

レジュメの「3 作文型小論文を「どう」書いたらよいか? ～「未来の自分」中心型～」(p.16～)を参照すること。